

第6学年国語科学習指導案

福山市立曙小学校 授業者：木下 恵介

- 1 日時 2014年（平成26年）10月31日（金） 5校時
 2 学年・組 6年2組（30名）
 3 単元名 ～ 作者の生き方と重ねて作品を読み、味わおう 宮沢賢治のメッセージ ～
 「やまなし」「イーハトーヴの夢」

【1】 つまづきの把握（1）

平成26年度 全国学力・学習状況調査 国語B

3 「まど・みちお 全詩集」作 まど・みちお

(1) ㊦の中に入る、最もふさわしいものを、1から3までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

そうね。「タンポポ」のことを、イヌは「ワンフォフォ」、ウシは「ターモーモ」と表現しているところは、それぞれの動物たちの ㊦ を「タンポポ」という言葉のひびきに重ねているようだね。

(2) イ・ウ・エの中に入る、最もふさわしいものを、1から3までの中からそれぞれ一つ選んで、その番号を書きましょう。ただし、同じ番号は一回しか入りません。

そうね。「あーら ひょーら ぷーら しょ」という言葉は、第一連では イ 呼び、第二連では ウ 呼んでいるね。第三連では エ 呼びかけていることが分かるわ。それにしても、この言葉はだれの声なのかしら。

解答：(1) 「1 鳴き声」と解答しているもの
 (2) イに3, ウに1, エに②と解答しているもの

【出題の趣旨】

二つの詩を比べて読み、表現の工夫を捉えることができるかどうかをみる。

【学習指導要領の内容・領域】

C 読むこと（第5・6学年）

E 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

力 語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつこと。

設問一(1)	正答率
広島県	80.6
本校	72.1

解答類型	1◎	2	3	9	無解答
本校の割合(%)	72.1	17.4	8.1	0.0	2.3

設問一(2)	正答率
広島県	60.3
本校	57.0

解答類型	1◎	2	3	4	5	6	7	9	無解答
本校の割合(%)	57.0	1.2	0.0	0.0	8.1	12.8	12.8	5.8	2.3

この問題を解くために必要な力

詩の内容や表現の工夫を捉えるとともに、作者のものの見方や考え方について理解する力。

分析

○設問一（1）においては、詩1の「タンポポ」という語のリズムに、各動物の「鳴き声」を表す「ワンフォフォ」や「ターモーモ」といった擬声語の表現を重ねていることを的確に捉える必要があるが、誤った解答を選択している児童は、この擬声語表現を「名前」や「気持ち」等、正しく捉えることができていない。

○設問一（2）においては、詩2のそれぞれの連で「どんな こえで?」、「どっちの ほうで?」「だれを だれを?」といった異なる問いかけの表現があることを捉えることが求められる。このことを踏まえた上で、誤った解答を選択している児童は、それぞれの連で繰り返されている言葉に着目し、それがどのような意味を表しているかを的確に捉えることができていない。

○「その他」について

→設問で尋ねられていることが理解できていない。

【1】 つまづきの把握（2）

プレテスト（平成24年度「基礎・基本」定着状況調査）

次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。
（安江生代 「海からの手紙」による）

- 3 ②やってみたくてたまらなくなりました。とありますが、あやが、このように思ったのはなぜでしょうか。
□の中に書きましょう。

→解答：料理をしてみると思ったよりかんたんだったし、健太が楽しそうにしていたから。

【出題の趣旨】

情景についての描写から、登場人物の心情を捉えることができるかどうかを見る。

【学習指導要領の内容・領域】

C 読むこと（第5・6学年）

エ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。

この問題を解くために必要な力

情景描写から、登場人物の心情を捉え、豊かに想像する力。

誤答分析

解答類型	1 ○	2 △	3 △	4 ×	5 ×	9 ×	無解答
割合(%)	4.0	26.0	26.0	4.0	41.0	0.0	0.0

○解答類型2・3について

→「料理をしてみると思ったよりかんたんだったから」と「健太が楽しそうにしていたから」のどちらか一方のみを答えている。準正答ではあるが、叙述から、登場人物がとった行動の原因を正しく捉えきれていないといえる。

○解答類型4について

→「とても慣れた手つきで楽しそうだったから。」と答えており、動作の主体を捉えることができていない。

○解答類型5について

→「ジージー、ジャージャーという音を聞いてみたかったから」と答えており、「ジージー、ジャージャー」という音が聞こえてきたという直接的な表現にのみ着目している。登場人物の言動や場面についての描写から心情を豊かに創造することができていないといえる。この解答をしている児童が41%もいることから、児童は叙述の直接的な描写を読み取ることはできるが、登場人物の言動や暗示的な表現から、内面的な心情を豊かに捉えることに課題があるといえる。

【2】 指導改善ポイントの明確化

調査結果からみる課題

【課題となる力】

- ・登場人物の相互関係や場面についての描写、また情景描写における表現の工夫を捉え、想像を豊かにしながら読む力。

【指導上の課題】

- ・叙述を根拠にして自分の考えをもたせる指導は行ってきたが、直接的な描写ではなく情景や擬態語・擬声語などの暗示的な表現から人物の内面的な心情や場面の様子を想像させるという指導は不十分であった。
- ・同じ作者の作品を比べ読みするなど効果的な読み方をすることで作品の主題や特徴を捉え、自分の考えを深めるという指導が不十分であった。

指導改善ポイント

- ①登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を多様な表現から捉え、豊かに想像しながら読ませる。
- ②目的に応じた効果的な読み方を工夫し、交流することで、優れた叙述について自分の考えをもたせ、広げ深めさせる。

【指導の工夫】



- ①直接的な描写や暗示的な表現を根拠にして、登場人物の心情や場面の様子を想像し、作品全体を捉えさせる。



- ②複数の宮沢賢治作品に触れ、それらを比べて読んだり、友達との考え方の共通点や相違点を交流したりすることで、優れた叙述について自分の考えをもち、広げたり深めたりさせる。

- ①登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を多様な表現から捉え、豊かに想像しながら読ませる。
- ②目的に応じた効果的な読み方を工夫し、交流することで、優れた叙述について自分の考えをもたせ、広げ深めさせる。



- ①直接的な描写や暗示的な表現を根拠にして、登場人物の心情や場面の様子を想像し、作品全体を捉えさせる。

- ・作品の中に用いられている比喻や反復、擬態語や擬声語など人物の心情や場面の様子を暗示的に表現する言葉にも着目して読むことで、より豊かに想像しながら作品を読ませる。
- ・優れた叙述や登場人物の心情、場面についての描写など、叙述を基に考えたことを毎時間まとめさせたり、場面の比較、題名の表す意味を考えさせたりすることで、作品の主題に迫らせる。
- ・読み取ったことを書く活動を取り入れる際、必ず叙述を根拠にして書かせる。また、何をどのように書くのか視点を明確にして書かせるために立場や条件を絞った発問を行う。



- ②複数の宮沢賢治作品に触れ、それらを比べて読んだり、友達との考え方の共通点や相違点を交流したりすることで、優れた叙述について自分の考えをもち、広げたり深めたりさせる。

- ・第三次のゴール(賢治を語る会)、相手意識(友達)・目的意識(作者の考え方や生き方と重ねて、作品を豊かに読むため)を明確に示し、第二次では宮沢賢治の考え方や生き方と重ねながら作品に込めた思いや願いを考えさせる。
- ・第0次の段階で事前に宮沢賢治の作品を複数読ませ、一言感想カードを書かせておく。また、作品を比較しながら読ませることで、作者特有の作品構成や表現、思いや願いなどに気付かせる。
- ・児童が意見交流をする際に使わせたい言葉のモデル【話し合いの術(すべ)】を提示し、児童一人一人が自分の考えを表現し、広げたり深めたりできるようにする。

【3】 単元について

本単元は、学習指導要領第5学年及び第6学年の目標（3）「目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。」ことを受けて、内容「C 読むこと」の「イ 目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること。」及び、「エ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。」、「カ 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと。」を主たるねらいとしている。

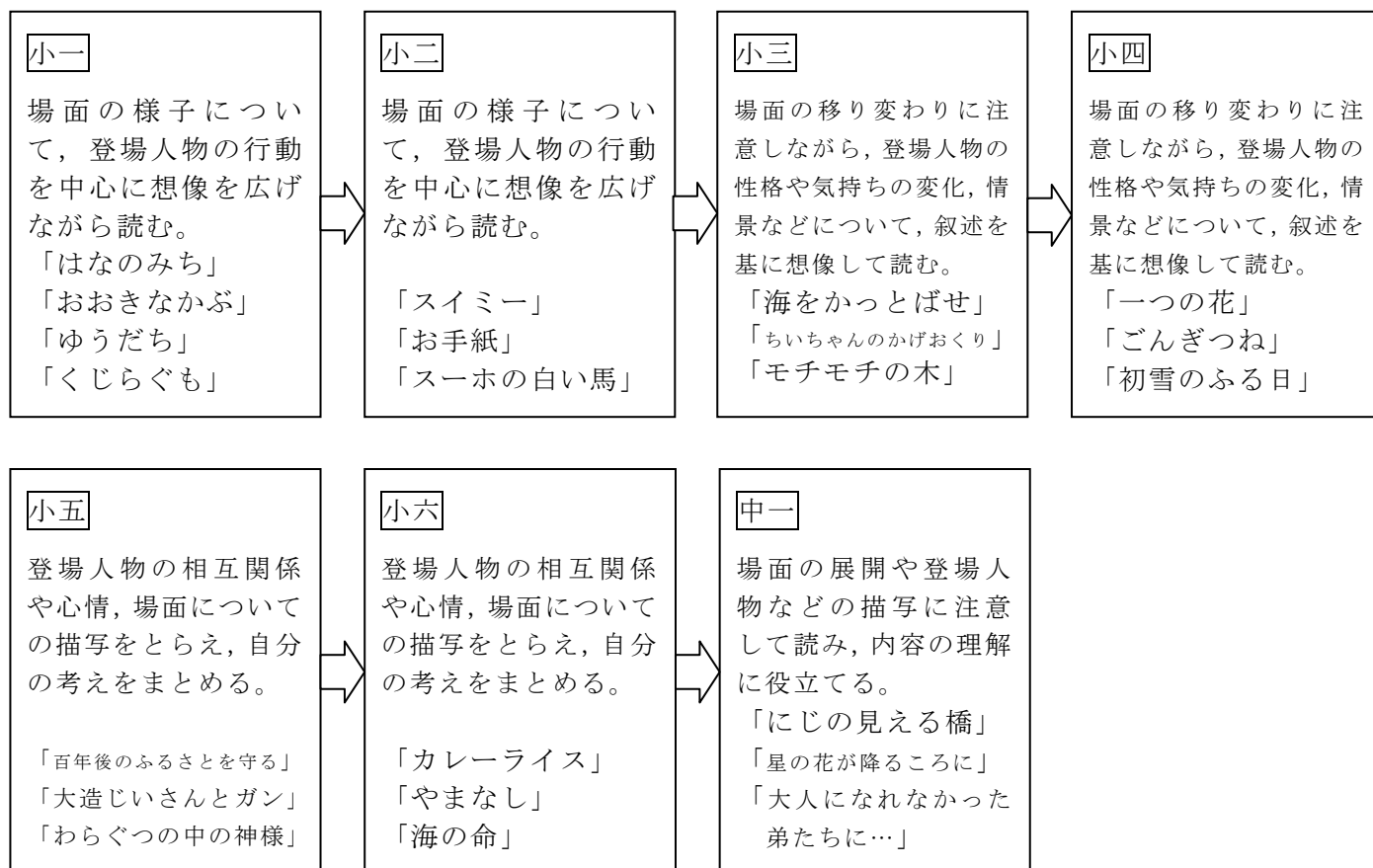
本単元は、宮沢賢治の代表的作品「やまなし」と、資料「イーハトーヴの夢」という2つの教材で構成されている。「イーハトーヴの夢」は、作者の生涯をたどった伝記で、夢や理想が端的にまとめられている部分も多くあり、児童が作者の生き方・考え方にしっかりと触れることができる教材である。ここでは、あえてこの資料を先に読むことで、児童はより意識しながら作者の生き方・考え方と作品とを関連付けて読み、「作品の世界を深く味わう」という大きなねらいに近づくことができると思う。

本教材「やまなし」は、かにかの親子の目から見た小さな谷川に起こる出来事を描いた宮沢賢治の代表的な作品である。この谷川の底の様子や出来事は、作者なりの描写で「幻灯」として表現したものであり、「生と死」「光と影」「奪うものと与えられるもの」が対比された世界が描かれている。また、そこには造語や比喩表現、擬声語や擬態語など作者独特の表現が使われている。このことから、「やまなし」は、作者自身の内面を描き出した作品として、登場人物や場面の描写を叙述に即して読み取るとともに、作者の生き方・考え方と関連付けて捉えることがしやすい教材である。また、決められた観点のもとに宮沢賢治の他作品にも読みを広げていくことで、作者と作品をより深く知るという体験を味わうことが期待できる。

これらのことから、本単元は先に述べた主たるねらいに迫ることに適していると思う。

【4】 内容の関連

【登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、自分の考えをまとめながら読む系統】



【5】 単元の目標

- ①作者の生き方・考え方と重ねながら、進んで作品を読んだり、読み比べたり、語ったりしようとしている。
「国語への関心・意欲・態度」
- ②作者の生き方・考え方と重ねながら読むという目的に応じて複数の作品を比べて読み、効果的な読み方を工夫することができる。
「C 読むこと(1)イ」
- ③作品の中で使われている表現や場面についての描写をとらえながら、作品に込められた思いや願いについて自分の考えをまとめることができる。
「C 読むこと(1)エ」
- ④作品に特有の言葉の使い方やその面白さに気付いて文章を読むことができる。
「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)イ(ケ)」

【6】 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
○作者の生き方・考え方と重ねながら、進んで作品を読んだり、読み比べたり、語ったりしようとしている。	○作者の生き方・考え方と重ねながら読むという目的に応じて複数の本を比べて読み、効果的な読み方を工夫している。(イ) ○作品の中で使われている表現や場面についての描写をとらえながら、作品に込められた思いや願いについて自分の考えをまとめている。(エ)	○作品に特有の言葉の使い方やその面白さに気付いて文章を読んでいる。(ケ)

【7】 単元を貫く言語活動とその特徴

本単元を貫く言語活動として「宮沢賢治の生き方・考え方と重ねて作品を読み、『賢治を語る会（読書交流会）を行う」活動を設定した。

この言語活動の有効性は、作者の生き方・考え方を知り、それを関連させながら作品を読んだり、作品に込められた思いや願いを友達と交流したりすることで、その世界をより深く味わえることにある。また、「複数の作品を比べて読む」「作者の人生と重ねて読む」など、目的に応じて効果的な読み方を工夫することで、読書の意義や楽しさを実感させ、児童一人一人の豊かな読書生活の構築にもつなげられると考える。

作者が作品に込めた思いや願いについて自分の考えをまとめ、「賢治を語る会（読書交流会）」を通して考えを広げたり深めたりするという言語活動を通した指導

【具体的な言語活動】：宮沢賢治の生き方・考え方を関連させながら複数の作品を選書して読み、自分が選んだ作品に込められた思いや願いについて考えをまとめる。その個人の読みをさらに深くするために「賢治を語る会」をするという活動。

【 8 】 指導と評価の計画等

(全 8 時間)

次	時	学習内容	評 価			家庭学習		
			関	読	言		評価規準	評価方法
一	1	<ul style="list-style-type: none"> 学習の目的を知り、学習計画を立てて見通しをもつ。 本文を通読して初発の感想をもつ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;"> 複数の宮沢賢治作品に触れ、それらと比べて読んだり、友達との考え方の共通点や相違点を交流したりすることで、優れた叙述について自分の考えをもち、広げたり深めたりさせる。 </div>	◎			<ul style="list-style-type: none"> 宮沢賢治の複数の作品を進んで読み広げようとしている。 初発の感想を書いて自分の感想をもち、進んで交流している。 	観察 発言 ノート	音読 意味調べ 新出漢字
二	2	<ul style="list-style-type: none"> 「イーハトーヴの夢」を読み、宮沢賢治の生き方・考え方について読み取る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;"> 複数の宮沢賢治作品に触れ、それらと比べて読んだり、友達との考え方の共通点や相違点を交流したりすることで、優れた叙述について自分の考えをもち、広げたり深めたりさせる。 </div>		◎		<ul style="list-style-type: none"> 「イーハトーヴの夢」を読み、宮沢賢治の生き方・考え方を捉えている。 	観察 発言 ノート	音読 並行読書 漢字練習
	3	<ul style="list-style-type: none"> 「イーハトーヴの夢」を読み、宮沢賢治の生き方・考え方について話し合い、自分の考えをまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;"> 複数の宮沢賢治作品に触れ、それらと比べて読んだり、友達との考え方の共通点や相違点を交流したりすることで、優れた叙述について自分の考えをもち、広げたり深めたりさせる。 </div>		◎		<ul style="list-style-type: none"> 宮沢賢治の生き方・考え方について捉えたことを交流して、自分の考えをまとめている。 	観察 発言 ノート	音読 並行読書 漢字練習
	4	<ul style="list-style-type: none"> 「やまなし」を読み、「五月」の谷川の様子について、自分の考えをまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;"> 叙述を根拠にして登場人物の内面的な心情や場面の様子を想像し、作品全体を捉えさせる。 </div>	◎		○	<ul style="list-style-type: none"> 擬声語や擬態語、比喻表現などに着目し、その役割や効果に気付き、場面の情景を読み取り、自分の考えをまとめている。 	観察 発言 ノート	音読 並行読書 漢字練習
	5	<ul style="list-style-type: none"> 「やまなし」を読み、「十二月」の谷川の様子について、自分の考えをまとめる <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;"> 叙述を根拠にして登場人物の内面的な心情や場面の様子を想像し、作品全体を捉えさせる。 </div>	◎		○	<ul style="list-style-type: none"> 作品に特有の言葉の使い方やその面白さに気付いて文章を読んでいる。 	観察 発言 ノート	音読 並行読書 漢字練習
	6 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> 「五月」と「十二月」を比較し、宮沢賢治が作品に込めた思いや願いについて交流し、自分の考えをまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;"> 叙述を根拠にして登場人物の内面的な心情や場面の様子を想像し、作品全体を捉えさせる。 </div>	◎			<ul style="list-style-type: none"> 宮沢賢治が作品に込めた思いや願いについて自分の考えをもち、交流してまとめている。 	観察 発言 ノート	音読 並行読書 漢字練習
	三	7	<ul style="list-style-type: none"> 自分の選んだ作品に込められた作者の思いや願いを読み、自分の考えをまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;"> 複数の宮沢賢治作品に触れ、それらと比べて読んだり、友達との考え方の共通点や相違点を交流したりすることで、優れた叙述について自分の考えをもち、広げたり深めたりさせる。 </div>	○	◎		<ul style="list-style-type: none"> 作者の生き方・考え方と重ねながら作品を読もうとしている。 宮沢賢治の生き方・考え方を重ねながら自分の選んだ作品を読み、その特徴や作品に込められた思いや願いを捉えている。 	観察 ワーク シート
8		<ul style="list-style-type: none"> 「賢治を語る会」を開く。 単元全体のふり返りをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;"> 複数の宮沢賢治作品に触れ、それらと比べて読んだり、友達との考え方の共通点や相違点を交流したりすることで、優れた叙述について自分の考えをもち、広げたり深めたりさせる。 </div>	○	◎		<ul style="list-style-type: none"> 作品に込められた思いや考えを語ろうとしている。 友達との考え方の共通点や相違点を交流し、自分の考えを広げたり深めたりしている。 	観察 ワーク シート	音読 並行読書 漢字練習

【9】 本時の学習

(1) 本時の目標

「五月」と「十二月」を比較し、宮沢賢治が作品に込めた思いや願いについて捉え、自分の考えをまとめることができる。

(2) 本時の学習展開 6/8 時間

学習活動と予想される反応	指導上の留意事項	評価規準	評価方法												
1 本時の学習課題を確認する。															
<p>○前時までの学習を振り返る。</p> <p>○本時の学習課題を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習計画をもとに、学習のゴールを全体で確認する。 ・「五月」と「十二月」それぞれの場面を見てきたが、本時ではそれらの違いを比べることを確認する。 														
「五月」と「十二月」のちがいを比べることで、なぜ宮沢賢治が「やまなし」という題名にしたのかをとらえ、自分の考えをまとめよう。															
2 「五月」と「十二月」の違いを捉える。															
<p>○全体で、「五月」と「十二月」の場面に出てくる言葉の違いを確認する。</p> <p>五月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登場してくるもの <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 5px;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">五月</th> <th style="width: 50%;">十二月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(クラムボン) 魚 かわせみ かばの花びら</td> <td>やまなし</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・光や色彩に関するもの <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 5px;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">五月</th> <th style="width: 50%;">十二月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日光 暗い 黒く 青白い 青く暗く鋼のよう 青光りの</td> <td>月光 白い 青い 青白い 黄金のぶち 月光のにじ</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・形や様子・音に関するもの <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">五月</th> <th style="width: 50%;">十二月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>かぶかぶ くちやくちや ぎらぎら 鉄砲玉のような コンパスのように 黒くとがって</td> <td>トブン ぼかぼか サラサラ もかもか ゆらゆら</td> </tr> </tbody> </table>	五月	十二月	(クラムボン) 魚 かわせみ かばの花びら	やまなし	五月	十二月	日光 暗い 黒く 青白い 青く暗く鋼のよう 青光りの	月光 白い 青い 青白い 黄金のぶち 月光のにじ	五月	十二月	かぶかぶ くちやくちや ぎらぎら 鉄砲玉のような コンパスのように 黒くとがって	トブン ぼかぼか サラサラ もかもか ゆらゆら	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までに「五月」と「十二月」それぞれの場面について、いくつかの観点をもとに様子を捉えてきたことを想起させる。 ・前時までに学習した「五月」と「十二月」の二枚の幻灯はどんなイメージかを考えることを知らせ、そのために根拠となる言葉を集めさせる。 		
五月	十二月														
(クラムボン) 魚 かわせみ かばの花びら	やまなし														
五月	十二月														
日光 暗い 黒く 青白い 青く暗く鋼のよう 青光りの	月光 白い 青い 青白い 黄金のぶち 月光のにじ														
五月	十二月														
かぶかぶ くちやくちや ぎらぎら 鉄砲玉のような コンパスのように 黒くとがって	トブン ぼかぼか サラサラ もかもか ゆらゆら														

○「五月」と「十二月」それぞれのイメージを表す言葉を考える。		<ul style="list-style-type: none"> ・表現をもとに捉えた場面の様子を手がかりにして、二つの場面の違いをグループで明確に見出させる。 ・話し合いの手立てとして、意見交流の際に用いる「話し合いガイド」を活用させる。 ・各グループで交流したことを短冊にして出させ、児童の言葉で板書を作り上げる。 			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>五月</th> <th>十二月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>暗い・怖い 活発 死の世界 奪われる命 悲しみの世界 死の恐怖</td> <td>明るい・楽しい 静か・おだやか 生の世界 与える命 喜びの世界 生きる希望</td> </tr> </tbody> </table>	五月				十二月
五月	十二月				
暗い・怖い 活発 死の世界 奪われる命 悲しみの世界 死の恐怖	明るい・楽しい 静か・おだやか 生の世界 与える命 喜びの世界 生きる希望				

3 宮沢賢治が「やまなし」に込めた思いや願い(主題)を捉える。

<p>○全体の題名が「やまなし」になっている意味を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮沢賢治は妹トシが無くなった悲しみを、カワセミが魚の命を奪うことで表現している。命の重さについてより深く考えるようになったことで、「与えられる命」を感じさせる「やまなし」を題名にしたのだと思う。 ・宮沢賢治は大きな自然災害を何度も経験していたので、「平和」や「希望」を求めている。だから、自然の厳しさを感じさせる「五月」ではなく、おだやかで、自然の恵みを感じさせる「やまなし」を題名にしたのだと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・宮沢賢治は、なぜ題名を十二月にしか出てこない「やまなし」にしたのか、考えを書く際の視点を示し、根拠に基づいた思考をさせる。 ・交流では、自分と友達の考えとの共通点や相違点を見つけさせ、自分の考えを広げたり深めたりできるようにさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・宮沢賢治が作品に込めた思いや願いについて自分の考えをもち、交流してまとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察 ・発言 ・ノート
--	--	---	--

4 学習のまとめをする。

<p>○友達と交流したことも踏まえ、本時のまとめとして、宮沢賢治が「やまなし」にどのような思いや願いを込めたのか、自分なりの考えを書いてまとめる。</p> <p>○振り返りを書き、次時の学習の見通しをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習を通してのまとめを自分の言葉で書かせることで、自己の思考の深まりを感じさせる。 		
---	--	--	--

十二月

やまなし

明るい・楽しい 生の世界 与える命 喜びの世界

月光
白
青い
青白
黄金のぶち
月光のにじ

トブン
ぼかぼか
サラサラ
もかもか
ゆらゆら

五月

暗い・怖い 死の世界 奪われる命 悲しみの世界

日光
暗い
黒く
青白
青く暗く鋼のよう
青光りの

かぶかぶ
くちやくちや
ぎらぎら
鉄砲玉のような
コンパスのように
黒くがって

登場するもの

光や色

形や様子・音

作者の生き方と重ねて作品を読み、味わおう
宮沢賢治のメッセージ

やまなし

宮沢 賢治
かすや 昌宏 絵作

めあて

「五月」と「十二月」のちがいを比べることで、なぜ宮沢賢治が「やまなし」という題名にしたのかをとらえ、自分の考えをまとめよう。

「やまなし」に込められた思いや願い

- ・ 平和で希望ある社会を目指すこと
- ・ 周りのために尽くすことの大切さ
- ・ 命のつながりの大切さ

まとめ (振り返り)

(例) 宮沢賢治は、命はめぐっていくものだけど、死の悲しみではなく生きることの喜びを多く感じられるような社会であってほしいという願いを「やまなし」に込めた。

【10】 評価問題

(平成 22 年度 「基礎・基本」 定着状況調査「国語 三」)

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(阿部夏丸 「オオサンショウウオの夏」による)

- 3 ①それほど、この一匹はうれしかった。とありますが、どうしてうれしかったのでしょうか。
 の中に書きましょう。

【11】 家庭学習

- 作品に出てくる語句の意味調べを行い、宮沢賢治作品特有の表現を深く味わうための手がかりとする。
- 作品に込められた作者の思いや願いを意識しながら「やまなし」を音読する。音読カードに保護者のサインをもらい、日々の頑張りを目で見分けるようにする。
- 目的に応じて本を読み、作者の生き方・考え方と重ねて考えることで、読書を深める。
 - ・宮沢賢治の別作品をあらかじめ選定して教室にコーナーを設置し、第 0 次の段階から並行読書に取組ませる。
 - ・作品のリストを配布したり、感想カードを書かせたりすることで、作品への興味をもたせる。